

商工労働部 マネジメント方針

商工労働部では市長との政策協議のもと、次のとおり基本方針・組織目標・行動目標を定めました。この方針に基づき目標の達成に向け着実に取り組みます。

平成 31 年 4 月 1 日

商工労働部長 北 村 真 治

【基本方針】

企業立地戦略に基づき、企業の立地を推進し雇用と就業機会の創出に努めるとともに、社会経済等の動向に対応するため、支援制度の見直しに取り組みます。

また、リノベーションや公共空間活用など民間主体のまちづくり活動と連携して中心市街地の活性化に取り組むとともに、オールフクイ体制で商圈維持・拡大に取り組むなど商業の振興を図ります。

更に、ふくい嶺北連携中枢都市圏全体の経済成長に向けて、中小企業・小規模事業者や創業者へ効果的な支援を行いながら、地域産業の競争力向上を図ります。

地方の労働力不足が深刻化する中、若者、女性、高齢者など、誰もが安心して働けるまちを目指します。

北陸新幹線福井開業を観光誘客拡大の最大の好機と捉え、万全の体制を整えるために観光振興計画を改定します。

一乗谷朝倉氏遺跡や越前海岸をはじめ、ふくい嶺北連携中枢都市圏における広域観光周遊ルートの構築や体験交流型観光メニューの充実に加え、インバウンド誘客に取り組みながら、交流人口の拡大を図っていきます。

また、コンベンション誘致強化のため、拡充された開催助成金のPRを行い、今後も継続して誘致活動に取り組みます。

加えて、文化芸術の振興に取り組むとともに、施設の魅力向上を図りながら情報を広く発信し、文化資源や文化芸術イベントを活用した観光誘客や交流人口の増加につなげます。

【組織目標】

- . 中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります
- . 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります
- . U・Iターン就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します
- . 公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます
<観光文化局担当>
- . ()食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします
- . ()福井の魅力を磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします
- . ()様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます
- . ()多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます
- . ()文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

【行動目標】

- ・ 中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります

1 商業の振興

市内商業者の商圈維持・拡大のため、商業者が一体となったオールフクイ体制で実施する共同企画を支援するとともに、「オールフクイLINE@」を活用して広く消費者にお得な情報を発信し、市内商業の活性化に努めます。

オールフクイLINE@会員登録数（累計）	： 5,680 人（平成 30 年度）
	10,000 人（令和元年度）

2 企業立地の促進

福井市企業立地戦略に基づき、本市の産業の発展に資する効果的な企業立地施策に取り組みます。

県外企業に対し、東京事務所と連携して展示会への出展や企業訪問を行うなど、様々な機会を活用して本市の強みを発信し誘致を図るとともに、市内企業に対しても、企業との情報交換や関係強化に努め、規模拡大に対応した企業立地を推進します。

また、支援制度について、社会経済の動向や人口減少等の課題に対応するための見直しを行います。

企業立地支援指定数	： 14 件（平成 30 年度）	15 件（令和元年度）
企業の状況把握のための訪問数	： 432 社（平成 30 年度）	440 社（令和元年度）

3 高付加価値のものづくり・販路開拓の支援

新たな価値の創出のため、ふくい嶺北連携中枢都市圏内の中小企業者の連携を促し、新製品開発や新事業創出の支援を行います。

本市の基幹産業である繊維産業については、新技術、新製品の開発や海外への販路開拓の取組に対して、重点的な支援を行います。

また、慢性的となっている中小企業者の人手不足の解消や生産性の向上を図るため、若手人財（ ）育成のための懇談会の実施や設備投資の促進を行います。

さらに、市内企業の優れた製品や技術力を紹介するため立ち上げた「福井市ものづくり企業縁活サイト」については、サイトの充実を図るとともに、企業訪問時に登録を呼びかけるなど、積極的な活用を促進します。

生産性向上に資する設備投資への支援	： 100 件
新技術、新製品の開発に対する支援件数（累計）	
	： 6 件（平成 30 年度） 8 件（令和元年度）
繊維関連事業者の国内外での販路開拓に係る商談成立件数	
	： 8 件（平成 30 年度） 10 件（令和元年度）
ふくい企業若手人財（ ）育成懇談会の実施	： 2 回
ものづくり企業縁活サイト登録企業件数	： 149 件（平成 30 年度）
	200 件（令和元年度）

人財

企業にとって「財産」であるという意味での人材

4 起業家創出の促進

本市における産業の活力を高めるため、創業の動きを活性化していく必要があることから、福井市創業支援等事業計画に基づき、認定連携創業支援等事業者や市内金融機関等との連携を強化し、創業者のステージに応じた継続的な支援を図ります。

また、ビジネスプランコンテストを開催し、創業機運を醸成するとともに、提案されたビジネスプランの実現に向けて、関係機関と連携した支援を行います。

さらに、事業承継については、税理士等の専門家を対象とする実践的なセミナーの開催や、事業承継ネットワークや県事業引継ぎ支援センターとの連携を密にすることにより相談体制の充実を図るなど、事業承継の推進に向けた取組の充実に努めます。

市内での創業者数	： 91 人（平成 30 年度）	100 人（令和元年度）
事業承継相談件数	： 6 件（平成 30 年度）	8 件（令和元年度）

5 農商工連携の推進

市内百貨店において「おいしいふくい大博覧会」を継続して開催し、「ふくいの恵み」認定商品を始め、ふくい嶺北連携中枢都市圏内の特産品の認知度向上を図るとともに、東京事務所・農林水産部と連携した首都圏での物産展の実施などにより、福井の食の普及、振興に取り組みます。

市内百貨店での物産展の開催	:	6月
「ふくいの恵み」認定商品販売額	:	297,760千円(平成30年度)
		350,000千円(令和元年度)

6 金融・経営支援の充実

中小企業の健全な経営をサポートするため、経営専門指導員が市内中小企業を訪問し、財務管理の方法や良好な資金繰りについて出張講座を実施します

また、金融機関等との情報交換により、中小企業を取り巻く環境や個別の経営動向を把握しながら、企業が利用しやすいよう融資制度の充実を図ります。

市内中小企業への出張講座件数	:	5件
金融機関及び経済団体等との情報交換回数	:	35回

・ 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります

7 まちなかにおける民間主体の賑わいづくりの促進

まちなか全体の賑わいを高めるため、都市利便増進協定（ 1 ）に基づき、まちづくり福井株式会社が運営するまちなか公共空間「ソライロテラス（ 2 ）」の企業・団体等による利用促進を図ります。また、ハピリンや新栄テラスなどとの連携を強化することで、来街者の回遊性の向上につなげていきます。

企業・団体等によるソライロテラスの利用件数	: 30 件
歩行者・自転車通行量（中央 1 丁目）	: 40,000 人

1 都市利便増進協定

賑わいの創出のため、広場、道路、休憩設備など来街者の利便増進に寄与する施設を一体的に整備・管理することにより、官民連携のまちづくりを図る協定制度で、福井市とまちづくり福井が平成 30 年 4 月に締結

2 ソライロテラス

西武福井店横アップルロード、鳩の御門通り、ガレリア元町アーケード、ガレリアポケット

8 リノベーションによるまちづくりの推進

老朽化した遊休不動産を有効活用し、地域の価値向上を図るリノベーションによるまちづくりを推進するため、リノベーション事業の担い手を育成する実践型ワークショップ「ディスカバリー福井 2019」を開催し、地域の魅力向上に資する出店につなげます。

まちなか地区におけるリノベーションの件数（累計）	: 13 件（平成 30 年度）
	15 件（令和元年度）

- ・ U・Iターン就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します

9 U・Iターン就職の促進

学生に対するU・Iターン就職促進事業として、市内企業で働く魅力について考える機会を提供するため、ふくいU・Iターンサマーキャンプ、企業訪問ツアー、県との共催で合同企業説明会を開催します。また、保護者の意見が学生の就職活動に与える影響が大きいことから、保護者を対象とした個別相談会を開催します。

社会人に対する事業として、移住を検討している家族を対象に、企業訪問や生活環境の紹介を組み合わせたツアーを開催します。また、U・Iターン者を雇用する企業に対し雇用奨励金を支給し、U・Iターン就職を促進します。

これらの事業の広報や参加者募集を強化するため、就職支援サイト「ふくいおしごとネット」を活用した周知に加え、東京事務所やハローワークなど関係機関と連携するほか、就職支援協定を締結した大学との積極的な連携に取り組みます。

U・Iターン就職促進事業を利用して就職した学生及び社会人の数

: 63人(平成30年度) 65人(令和元年度)

10 就労機会の創出

出産・育児後に再就職を目指す女性や、就職・転職を希望する障がい者の就職を実現させるため、就職支援セミナーや、ハローワーク福井と連携したミニ面接会を開催します。また、地元就職を後押しするため、県内大学生と経営者や若手社員との交流会を大学キャンパス内で開催します。さらに、高齢者の能力を活かすため福井市シルバー人材センターへの事業支援や、企業における高齢者の活用に関するセミナーを実施します。

就職支援事業を利用して就職した若者及び女性の数

: 91人(平成30年度) 110人(令和元年度)

シルバー人材センター会員の就業率() : 78.5%(平成30年度)

79.0%(令和元年度)

キャンパス出張交流会 : 2大学

シルバー人材センター会員の就業率(就業者数/シルバー人材センター会員数)

平成30年度実績 $1,764/2,247 = 78.5\%$

令和元年度目標 $1,775/2,247 = 79.0\%$

1.1 働き方改革（ワークライフバランス）の推進

働き方改革（ワークライフバランス）の重要性や必要性について事業主の理解を深めるため、雇用管理セミナーや中小企業雇用促進相談員による企業訪問を実施します。

また、働きやすい職場環境実現のため、育児・介護と仕事の両立や、働き方改革に取り組んだ中小企業に対し奨励金を交付します。

ワークライフバランス推進事業による支援企業数

： 54件（平成30年度） 60件（令和元年度）

・公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます

1.2 競輪事業の継続

特別競輪第4回ウィナーズカップ in 福井（G ）が来年3月に開催されることから競輪場への来場や新規ファンの獲得を促進するため、ショッピングセンターや中心市街地での出向宣伝、各種イベント等を積極的に実施し、PRに努めます。

全国の競輪施行者との連携を更に強化しながら、場間場外発売の相互協力関係の充実に努め、車券売上額の向上を図ることで収益を確保し、福井市への確実な繰出を目指します。

また、建物ごとの安全性の検証や施設規模の検討等、施設改修計画の策定に向けた調査、研究を進めます。

一般会計への繰出金 : 150,000 千円

・()食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします

1.3 新観光振興計画の改定

北陸新幹線福井開業を観光誘客や観光産業振興の拡大の好機として確実に捉え、万全の体制で迎えるために、観光振興計画を前倒しで改定します。

観光によるまちづくりの推進や交流人口・関係人口の拡大、地域経済の活性化につなげるため、福井の魅力や情報を首都圏等に強力に発信する戦略的な観光プロモーションやイベント等の実施を盛り込んだ具体的な計画とします。

観光振興計画の改定

1.4 観光産業の振興

広域観光周遊ルートの構築や戦略的なプロモーション等を行うため、ふくい嶺北連携中枢都市圏の他市町と連携しながら、圏域全体への観光誘客に取り組みます。

コンベンション誘致については、拡充された開催助成金制度を活用するとともに、文化施設を活用したコンベンションの提案など、今後も継続して誘致活動に注力していきます。

体験交流型観光については、市、JR西日本、福井商工会議所が協働し実施している「福井旅の体験手帖 ふくのね」と連携しながら、滞在時間の延長につながる体験交流型観光メニューの充実を図り、市内宿泊者数、市内観光消費額の拡大を目指します。

観光客入込数（連携中枢都市圏域内）	： 2,341 万人
体験交流型観光メニュー数	： 41 個（平成 30 年度） 43 個（令和元年度）
市内宿泊者数	： 81 万人（国体含む） 74 万人（国体除く）(平成 30 年) 75 万人（令和元年）
市内観光消費額	： 287 億円（国体含む） 272 億円（国体除く）(平成 30 年) 274 億円（令和元年）
市内コンベンション開催件数	： 103 件（平成 30 年度） 140 件（令和元年度）

15 「一乗谷」への観光誘客と一乗谷朝倉氏遺跡の保存管理

日本で唯一、戦国期の城下町跡がそのまま残る日本最大の中世都市遺跡「一乗谷朝倉氏遺跡」のイメージアップを図るため、一乗谷ディスカバリープロジェクトメンバー等による情報発信を進めます。

一乗谷観光客入込数は、新幹線金沢開業効果もあり平成 27 年度には大幅に増加しましたが、開業効果が薄れてきたことから、新たな取組等を行い、今年度 90 万人を目指します。

具体的には、ファミリー層や女性を対象とした「熱気球係留バルーン」、「ヨガ」などの体験型イベントを実施するほか、来年度の大河ドラマの主人公、明智光秀を奉った明智神社と一乗谷朝倉氏遺跡を効果的にPRするリーフレットを作成し、明智神社と一乗谷朝倉氏遺跡を繋げるモニターツアーを実施します。

さらに、福井駅と遺跡とを結ぶ一乗谷朝倉特急バスの利用者へ、時代衣装を着用した無料定時ガイドを実施します。

また、「福井・永平寺周遊滞在型観光推進計画」に基づく酒蔵周遊事業の拡充や、一乗谷・永平寺のライトアップ事業などを実施するとともに、一乗谷朝倉特急バスの通年運行により二次交通の充実を図ることで、一乗谷・永平寺エリア全体の魅力向上につなげます。

併せて、一乗谷朝倉氏遺跡の重要な遺構を後世まで保存するため、適切に維持管理していきます。

一乗谷観光客入込数	:	72 万人 (平成 30 年)	90 万人 (令和元年)
-----------	---	-----------------	--------------

16 「まちなか」への観光誘客

「ふくい桜まつり」や「福井フェニックスまつり」、春と秋の「愛宕坂灯の回廊」、JR 福井駅周辺で開催される「第 32 回宇宙技術および科学の国際シンポジウム (I S T S)」などのイベントを活かしたまちなかへの観光誘客を推進し、交流人口の増加を目指します。

また、北陸新幹線福井開業に向けて、桜まつりの灯りの演出など、夜間景観の魅力向上にも積極的に取り組みます。

足羽山については、新鮮な情報を引き続きホームページや SNS で発信するとともに、市民と協働して足羽山の魅力を伝えるイベントを開催して、誘客を推進します。

まちなか観光客入込数	:	186 万人 (国体含む)	
		173 万人 (国体除く) (平成 30 年)	175 万人 (令和元年)
観光案内所案内人数	:	83,580 人 (国体含む)	
		74,961 人 (国体除く) (平成 30 年度)	75,000 人 (令和元年度)

I S T S (International Symposium on Space Technology and Science)

国内外の宇宙分野の研究者等が日本に一堂に会し、研究発表や討論を実施するシンポジウム

17 「越前海岸」への観光誘客

北陸新幹線福井開業に向け、越前海岸の伝統行事や風習、越前がに、水仙畑をはじめとする四季の風景を撮影したプロモーション動画やポスターを活用し越前海岸の魅力を情報発信するとともに、海開きにあわせた集客イベントを実施して、越前海岸への誘客につなげます。

引き続き、地域で観光のまちづくりに取り組む団体を支援し、若者と連携することで、越前海岸の豊富な地域資源を活かした体験交流型観光メニューの造成に取り組めます。

さらに、日本海ならではの景観や新鮮な食、伝統行事などは、周辺市町や地元観光団体と連携した取組を行うことで、越前海岸エリア全体の魅力向上につなげていきます。

越前海岸の体験交流型観光メニュー数	: 6個(平成30年度)	7個(令和元年度)
越前海岸観光客入込数	: 41万人(平成30年)	50万人(令和元年)

・()福井の魅力を磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします

18 おもてなしの心の醸成

本市を訪れる多くの観光客が「再び訪れたい」と思うような観光のまちづくりを進めるため、おもてなしの心の醸成や観光関連事業者等の資質向上を図り、観光客を温かく親切に迎える「観光おもてなし市民運動」を市民総ぐるみで進めます。

北陸新幹線福井開業を見据え、本市への更なる観光誘客やリピーターの増加を図り、国体・障スポで醸成された「おもてなしの機運と活動」に磨きをかける取組が必要となるため、タクシー乗務員をはじめ、観光事業者を対象とした講習会や研修会を行います。

また、おもてなし運動推進の牽引役となる「観光おもてなしマイスター」向けの研修も実施し、マイスターの観光知識及びお客様対応力のレベルアップを図ります。あわせて、歴史ボランティア「語り部」など観光ガイドの活動を引き続き支援し、新たなガイドルートの開発や、市民や観光客が福井の歴史を学ぶことができる機会を増やします。

福井市を訪れて良かったと感じた人の割合()	: 93.4% (平成30年度)
	94.0% (令和元年度)
「語り部」等の観光ガイドによる案内人数	: 10,512人 (平成30年度)
	11,200人 (令和元年度)

福井市を訪れて良かったと感じた人の割合
(市に好意的な意見の数 / おもてなし体験だよりの意見の数)

・() 様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます

1.9 観光情報の発信

観光パンフレット、テレビや新聞等の情報発信に加え、首都圏の駅で福井のPRポスターの掲出を行い、観光誘客を図ります。

また、ふくい嶺北連携中枢都市圏域内の市町と緊密に連携することで、ホームページ、フェイスブック、インスタグラムなどでの情報発信の強化を図るとともに、フィルムコミッション事業()によるテレビや映画などの撮影支援を通して、ふくいの魅力発信を行います。

県外での出向宣伝や営業では、イベント参加者や旅行会社、出版社に福井の旬な情報を提供するとともに、旅行関係事業者との人的ネットワークを構築することで、福井の認知度向上や旅行ニーズの把握、旅行商品の造成につなげます。特に首都圏での営業は、東京事務所と連携を密にして取り組みます。

観光関連新聞記事の掲載面積	: 66,725 cm ² (平成30年度)	67,000 cm ² (令和元年度)
出向宣伝や旅行会社への営業、商談会への参加	: 158回(平成30年度)	170回(令和元年度)
インスタグラム等SNSでの情報発信回数	: 250回	

フィルムコミッション事業

映画・テレビドラマ・CM等の映像作品の撮影が円滑に行われるための支援を行う事業

- ・()多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます

2 0 国際交流の活用と多文化共生のまちづくり

市やふくい市民国際交流協会が行う姉妹友好都市交流事業や多文化共生事業を通して、市民の国際理解を深めるとともに、改正入管法の施行により、さらに外国人労働者の増加が見込まれることから、コミュニケーション支援や生活支援に努め、日本人市民も外国人市民も安心して暮らせる地域づくりを進めます。

また、杭州市との友好都市提携 30 周年を記念した行政訪問団、市民訪問団の相互訪問により、人的交流や経済交流の拡大を目指します。

さらに、福井市国際文化交流大使（F C A ）が、本市の観光拠点を中心とした地域との交流の中で国際理解を進めるとともに、観光資源の取材も行いながら、S N S により本市の魅力を国内外に発信していきます。

市及びふくい市民国際交流協会が実施する国際交流事業等への市民の参加者数

： 6,141 人（平成 30 年度） 6,300 人（令和元年度）

福井市国際文化交流大使（F C A ）の地域活動等派遣

： 6 地区（平成 30 年度） 7 地区（令和元年度）

F C A（Fukui City International Cultural Ambassador）

姉妹都市（アメリカ合衆国ニューブランズウィック市・フラトン市）から招へいした青年を国際文化交流大使として任命し、姉妹都市交流や市民への国際理解活動、本市の魅力発信事業などに従事

2 1 インバウンド誘客の強化

外国人観光客を本市に呼び込むため、親日家が多く、訪日リピーター率も高い台湾を対象に旅行博への出展や営業活動を行うとともに、W E B での情報収集が主流となっている現状をふまえ、台湾でよく利用されている観光情報サイトで情報発信を行い本市の知名度を向上させ、誘客につなげます。

併せて、外国人観光客の受入環境を整備するため、ふくい嶺北連携中枢都市圏を通じて、通訳ボランティアの育成や、市内事業者のメニュー、パンフレットの外国語表記支援や無線 L A N 環境整備の支援に連携して取り組みます。

外国人宿泊者数（市調査） ； 22,800 人（平成 30 年） 24,000 人（令和元年）

通訳ボランティア育成事業の参加者数 ； 161 人（平成 30 年度） 170 人（令和元年度）

・()文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

2.2 文化芸術活動の交流促進と文化会館の設備整備

市民が文化的な環境の中で生きる喜びを見出せるよう、文化会館等での芸術鑑賞や体験事業の充実を図るとともに、福井市文化協会が主催する福井市民文化祭の開催や各種文化団体の活動を支援し、市民の誇りとなる文化芸術を振興します。

また、文化会館の舞台調光装置を整備するとともに、築 50 年が経過した会館の状態を確認するため調査を実施し、その結果に基づき、今後の施設利用の方針を決定します。

福井市民文化祭参加者数	: 5,558 人 (平成 30 年度)	7,200 人 (令和元年度)
文化会館利用者数	: 88,049 人 (平成 30 年度)	100,000 人 (令和元年度)

2.3 まちなか文化施設の魅力向上と情報発信

養浩館庭園では、地元住民やボランティア、関係団体との協働により、お茶席や伝統文化をテーマとした体験事業、夜間のライトアップなどを実施し、庭園の魅力向上を図ります。また、団体旅行客を対象としたお茶席を旅行会社と企画し、県外からの誘客を強化します。

愛宕坂茶道美術館は、開館 20 周年を迎えることから、記念講演会や特別展、さらに愛宕坂周辺施設と連携したお茶席などのイベントを実施し、茶道文化の普及啓発及び入館者増加を図ります。

橘曙覧記念文学館では、橘曙覧のほか足羽山や著名作家にまつわる企画展も開催し、入館者増加に取り組みます。

グリフィス記念館では、文化団体や周辺施設に対し、イベントスペースとして利用を呼び掛けるとともに、撮影スポットとしての利用を P R し、まちなかのにぎわい創出に努めます。

また、S N S を活用し、まちなか文化施設の最新情報を広く発信し、観光誘客を図ります。

文化施設 () 入場者数	: 94,960 人 (平成 30 年度)	114,360 人 (令和元年度)
---------------	-----------------------	-------------------

文化施設

養浩館庭園、橘曙覧記念文学館、愛宕坂茶道美術館、グリフィス記念館

2 4 美術館企画展等の開催

書画や陶芸、浮世絵など純粹美術の他、デジタル機器を多用した参加体験型や遊び心溢れるキャラクターの原画などを紹介し、世代を超えて気軽に芸術に親しめるよう、時代・地域・分野など美術の多様性を活かした魅力ある企画展()を開催します。また、作品解説会やワークショップ等の関連イベントを多数開催して楽しめるようにするとともに、文化施設等と連携しながら広域的に情報発信を図り、観光誘客に努めます。

アトリエ事業では、いつでも気軽に創造的な活動が行えるよう、生活と密着した創造性を養う新しいプログラムを開発して、子供から高齢者までが楽しめる機会を提供します。

また、本市の美術文化の向上を図るため、「市美展ふくい」の開催や、各種団体に展示室等の貸出を行い、市民が芸術活動を発表できる機会を提供します。

企画展入場者数	: 46,314 人 (平成 30 年度)	65,000 人 (令和元年度)
子どもアトリエ開催数	: 9 講座	
市民アトリエ開催数	: 9 講座	
総入館者数	: 95,114 人 (平成 30 年度)	97,000 人 (令和元年度)

企画展	「北大路魯山人展」	令和元年 6 月 1 日 ~ 7 月 7 日
	「魔法の美術館」	令和元年 7 月 19 日 ~ 9 月 1 日
	「ウォーリーをさがせ! 展」	令和元年 9 月 21 日 ~ 11 月 4 日
	「芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師展」	令和 2 年 2 月 22 日 ~ 3 月 29 日

2 5 郷土歴史博物館企画展等の開催

郷土の歴史や文化への誇りを育み発信できるよう、文献、考古、美術史という各分野から、地域の歴史や文化に関する魅力ある企画展を開催します。()企画展では、全国的に注目度や話題性の高いテーマとすることで誘客に努めます。また福井市内の文化財を広く紹介し、市内の魅力発信を行ってまいります。

自然史博物館、美術館との合同イベントや養浩館を舞台にした講座の開催、学芸員が自ら展示解説するなど、広く深く文化に触れたり学んだりしたりする機会を提供し、まちなかの賑わいの創出や観光誘客の推進につなげます。

企画展の入場者数	: 26,065 人 (平成 30 年度)	26,200 人 (令和元年度)
ギャラリートークの回数	: 35 回 (平成 30 年度)	37 回 (令和元年度)
総入館者数	: 84,810 人 (平成 30 年度)	85,000 人 (令和元年度)
収蔵資料数	: 41,048 点 (平成 30 年度)	41,200 点 (令和元年度)

企画展		
「大安禅寺の名宝」		平成 31 年 3 月 21 日 ~ 令和元年 5 月 6 日
「ありがとう平成 - 博物館コレクションからみる明治から平成 - 」	「東京オリンピック 1964」	令和元年 7 月 13 日 ~ 8 月 25 日
「将軍家茂と皇女和宮 - 行列が彩った二人の幕末 - 」		令和元年 10 月 12 日 ~ 11 月 24 日
「明智光秀と越前 - 雌伏のとき - 」		令和 2 年 3 月 20 日 ~ 5 月 6 日

2.6 自然史博物館企画展等の開催とセーレンプラネットの運営

自然史博物館では、足羽山を訪れる市民や観光客に、周遊しながら楽しんでもらえるよう、足羽山ビジターセンターにおいて、足羽山の魅力を発信するとともに、福井の自然を楽しく知り、学べる博物館を目指します。

セーレンプラネットでは、ドームシアターにおいて新たに制作した番組の投映、ハピリンや周辺施設、交通事業者等とイベント等での連携や、テレビ、新聞、雑誌、ウェブ等様々なメディアを利用して集客に努め、中心市街地のにぎわい創出や観光誘客につなげます。

また、県内唯一の自然科学の総合博物館として、郷土の豊かな自然や天文について興味深く学べる機会を提供し、自然科学への関心を高めてもらえるよう、魅力ある企画展（ ）を開催します。

自然史博物館入場者数	: 26,050 人 (平成 30 年度)	27,000 人 (令和元年度)
セーレンプラネット入場者数	: 107,047 人 (平成 30 年度)	127,000 人 (令和元年度)
産学連携科学技術キャリア教育事業参加者数	: 120 人 (平成 30 年度)	125 人 (令和元年度)

企画展 (自然史博物館)

「色彩の自然史」	平成 31 年	3 月 23 日 ~	令和元年 6 月 2 日
「美しき鳥の羽」	令和元年	7 月 13 日 ~	9 月 29 日
「干支展 ~子~」	令和元年	12 月 14 日 ~	令和 2 年 1 月 26 日
「鉱石・鉱物展」(仮)	令和 2 年	3 月 20 日 ~	5 月 31 日

企画展 (セーレンプラネット)

「セーレンプラネットができるまで展」	平成 31 年	4 月 27 日 ~	令和元年 5 月 6 日
「七夕 2019」(仮)	令和元年	6 月 22 日 ~	7 月 7 日
「恐竜と宇宙」(仮)	令和元年	7 月 14 日 ~	9 月 2 日
「天の川銀河」(仮)	令和元年	11 月 15 日 ~	令和 2 年 1 月 6 日
「星景写真展」(予定)	令和 2 年	1 月	

2.7 観光と文化の連携強化

地域に埋もれている特色ある歴史・文化財等を観光資源として活用するモニターツアーを実施します。

また、市内 11 の施設に入館、入園できる共通観覧券「ふくミュージアムパス」のさらなる周知と利用拡大に努めるとともに、歴史・文化資源を紹介する多言語対応のホームページや V T R を活用し、国内外へ福井の魅力を発信することで、観光誘客を図ります。

加えて、ふくい嶺北連携中枢都市圏域内の市町と連携し、圏域内の魅力ある文化資源を発掘し情報発信するとともに、文化資源や文化芸術イベントを活用し観光誘客や交流人口の増加を図るなど、文化芸術の振興に取り組みます。

歴史・文化資源を活かしたモニターツアーの実施	: 3 回 (平成 30 年度)
	4 回 (令和元年度)
文化資源活用パンフレットの作成	